

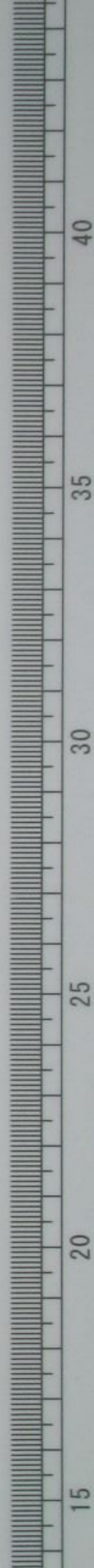


日本山海名物圖會

二

P  
283  
2

道通文庫  
文庫6  
2154  
2

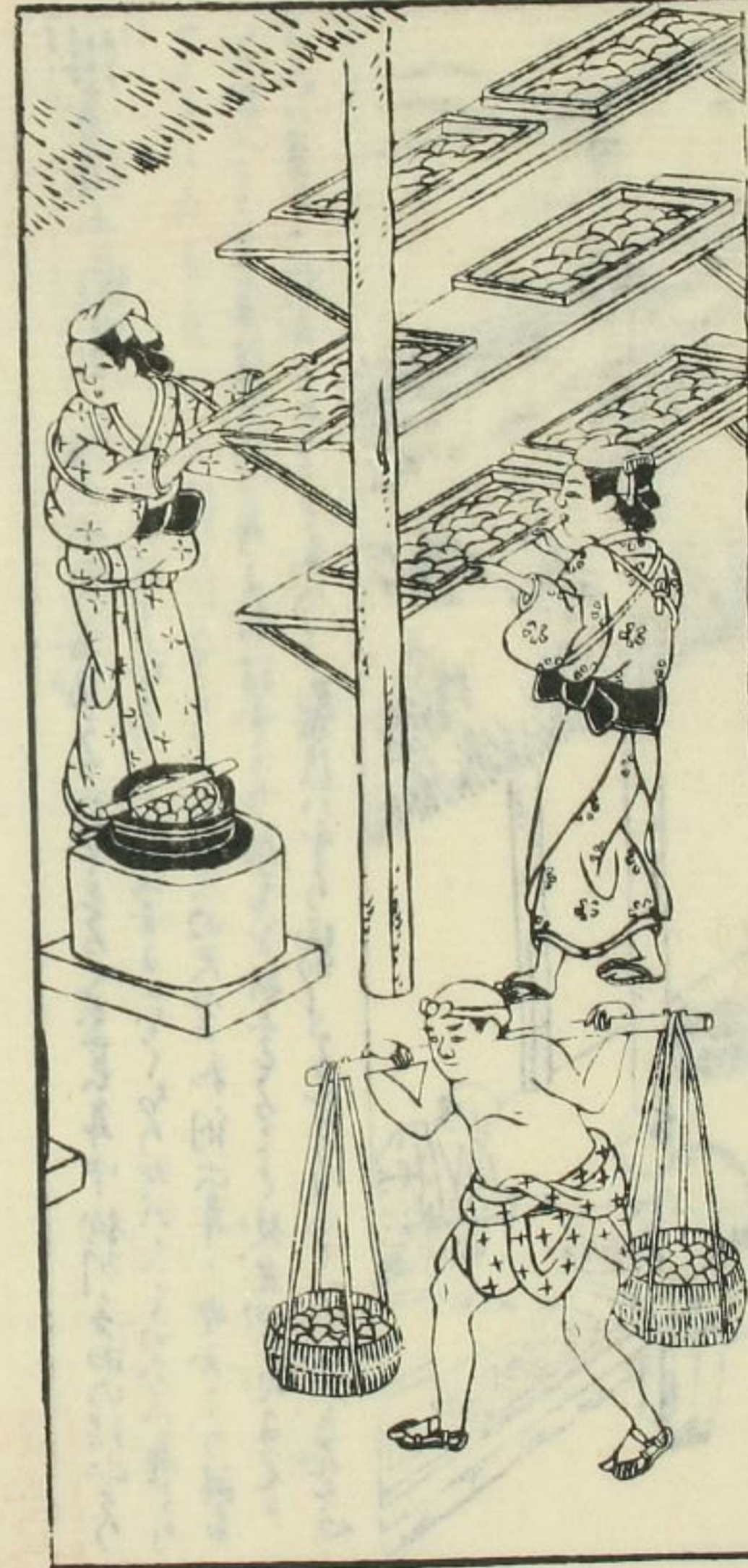
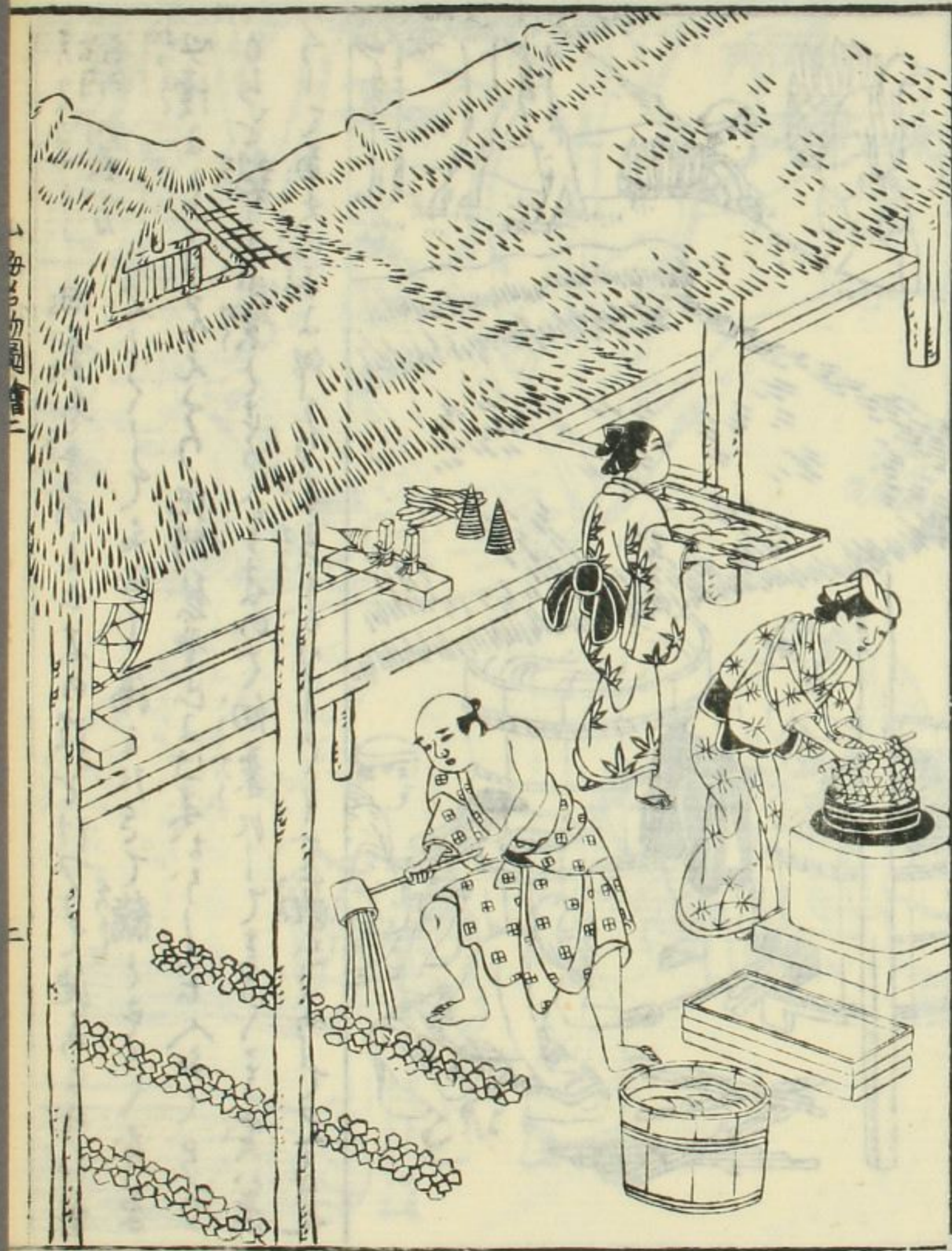




紺青緑青製法

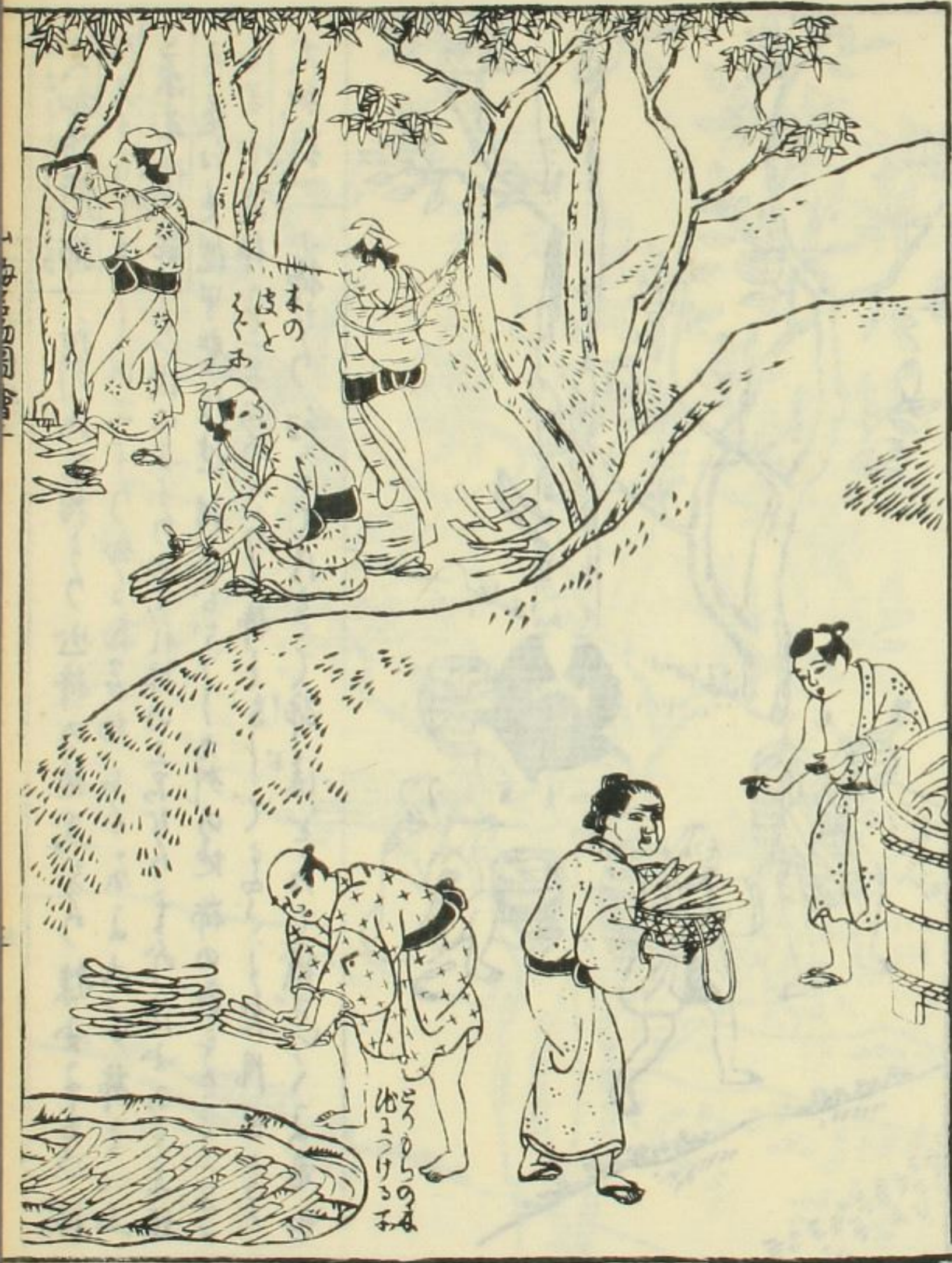
根山田の糶糸よりおきまきりて長年中掬別多田の法より  
 作りおほしめれりしは法をよかきりしはひくまひくまの法より  
 して日午の法より作りしは法をよかきりしはひくまひくまの法より  
 とおし一糸雀尻長久二年は掬は糸より細きと軟とすること枝葉田舎は入る  
 くれの昔より我はよあつとあべー掬ははさり極細しとすすみてははははは

青  
 田  
 田  
 田



海苔製方

海苔石臼きりぬぐんとありあどたひろくとある  
 山崎の海苔製方  
 海苔の製法は、海苔を煮て、石臼でつぶし、ぬぐい、乾燥させる。この製法は、海苔の味を良くし、消化を容易にする。また、海苔の栄養成分を最大限に引き出す。海苔の製法は、古くから伝わる。海苔の製法は、海苔の味を良くし、消化を容易にする。また、海苔の栄養成分を最大限に引き出す。海苔の製法は、古くから伝わる。



山名物類三  
 三  
 細葉冬青樹と云木の皮をけつりて池あまほけを  
 久しくして糸出湯にたきて繭とまろく本葉  
 心漬よまろりええり紀州徳也よは本おろく人ねそり  
 りらと製一が葉とまろくを木のて細葉にまろくそ実いお  
 くと南天の子よ解りまろりくくして製とめてえり

大和柿所柿

和列西所村より出柿の極品あり條金よもは柿  
 ひろまりてま〜西所より物る名物ありなよ西所柿といふ  
 京本條柿 山城の玉より出こ柿の上なりま介法本よ本條  
 ろに近に大徳甲斐依徳柿よま〜九州の地柿の熟するこよ上の方々  
 も子〜依柿よ上よりさ〜柿とを〜して〜た風味あり  
 大和柿 小柿なり 旬よてはさ〜て柿漬と〜て紙ざい〜よ用也





下巻の四十四番



濃柿

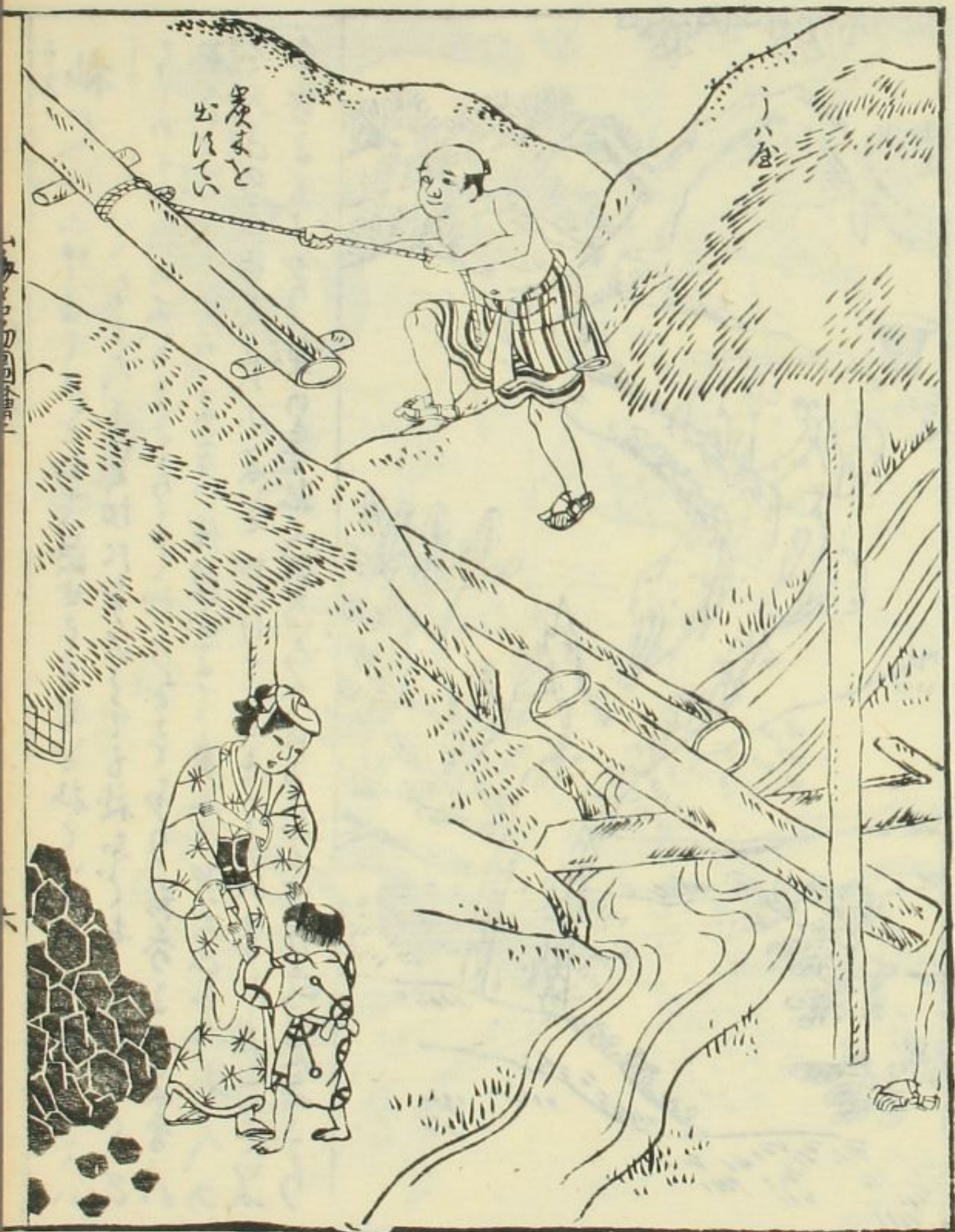
濃柿のいまだ熱せぬうちに皮とむき糸と付  
て竿よりけり日よかると安藝國の果まき人坊を味  
とんれりといへども濃柿はげりよりちいさく  
のこよりけり主散あて大ありなりよて三寸むり  
柿ありまきの時の大ききひやうへー〇う柿ころ柿も皆あつ  
以て柿より串柿ハ丹波よりおかく出あら柿ハ心城宇治名物

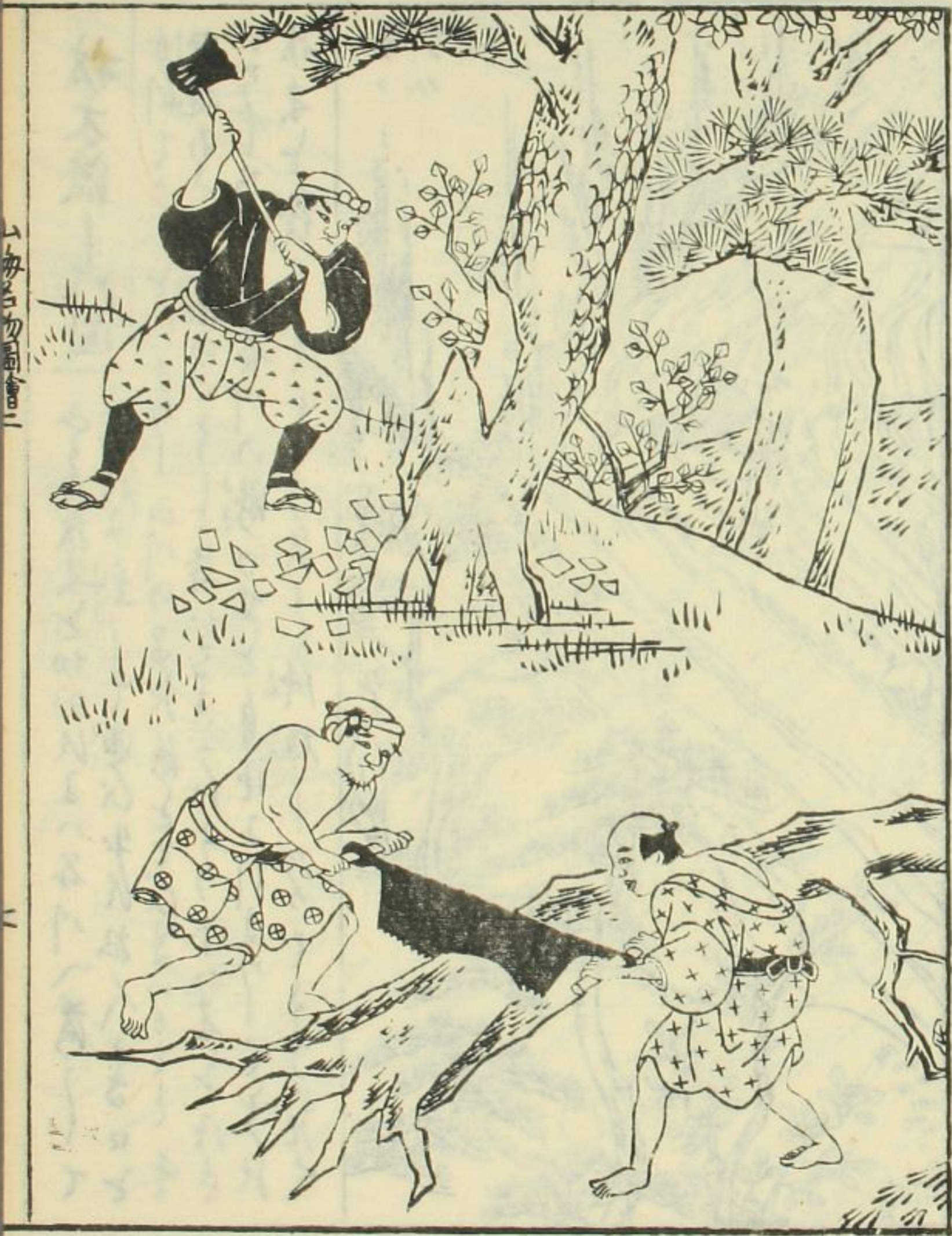
山崎の柿屋

四

炭焼圖

炭法國より多く出る中又日向國ト紀伊徳洲より  
 おるものも姓より一掃列池田真山よりあるとの炭の  
 名物之又和泉の横山炭名物之是れ枝炭之いばき也此は炭電と  
 してえてやくくはきくはぬい木薪の出入掃きより死あすすやうこ  
 ぶよの小野れすぬとより小野の城の玉を岩那やう





山打石松屋敷



松人

山中よて木と切て渡せり考と松とつなをて奥山よてハ  
 いちあり木と切たをいとも枝おどおこといなく只  
 ろめたり根のおとまさりよて切たをいともあり 和あまい木骨れ  
 ねくとおよそり木骨ハ伝徳よて奥山つた大山をり松人の  
 入山のるちるへい小木と切けて目下とんちん 松おとふ  
 和あまよより 葉の字松人のるちるへのゆあるは説文よえり

山打石松屋敷

一





上野名加圖會

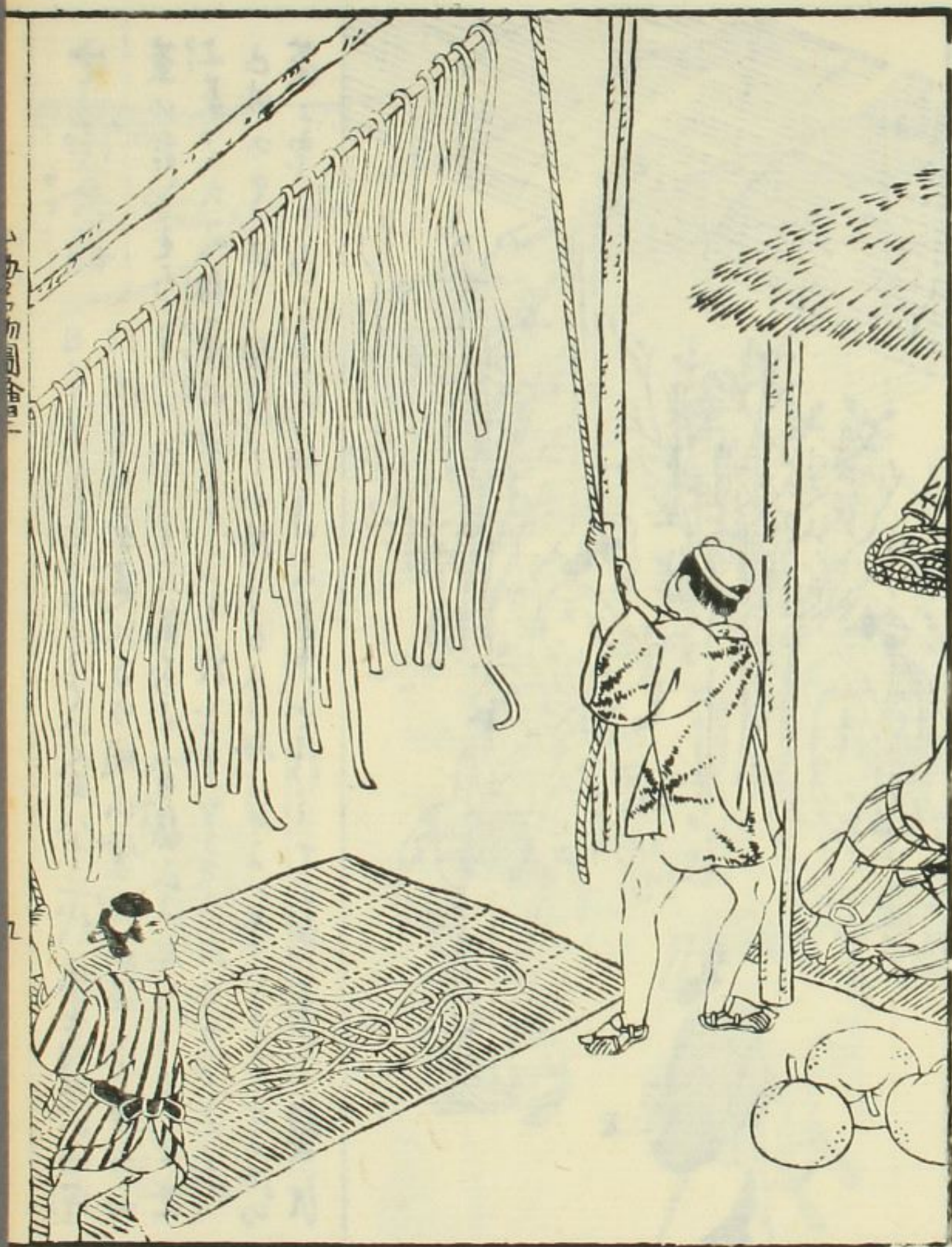


材木流し此圖

山より材木と切出はる谷川へ流して  
 流るは急にして運ぶ牛はね人さる口と  
 絶捷あつても木のころり山川のまた流とさひまづること  
 かろりちたひの谷川の勢つせと自はよ引まりてそれ  
 材木と伐うてまよひるく流練一なるさうたぐ

山形県新井郡新井町

七



栞列 木津干瓢 きつのはんぼう

むくし大坂とはちあふりたふく干瓢と  
 は今いまだ地所家とありぬき南に一村と  
 本津と云々屋くこれとゆり実の里より時たて梅切め皮と  
 去て細くむきあげ糸下よりけて目よむはそよ白くこと  
 のこと一木津はんをやうの名物えんこきとむくし  
 とたのよおたのよよて梅切のんひやうとまうてむく

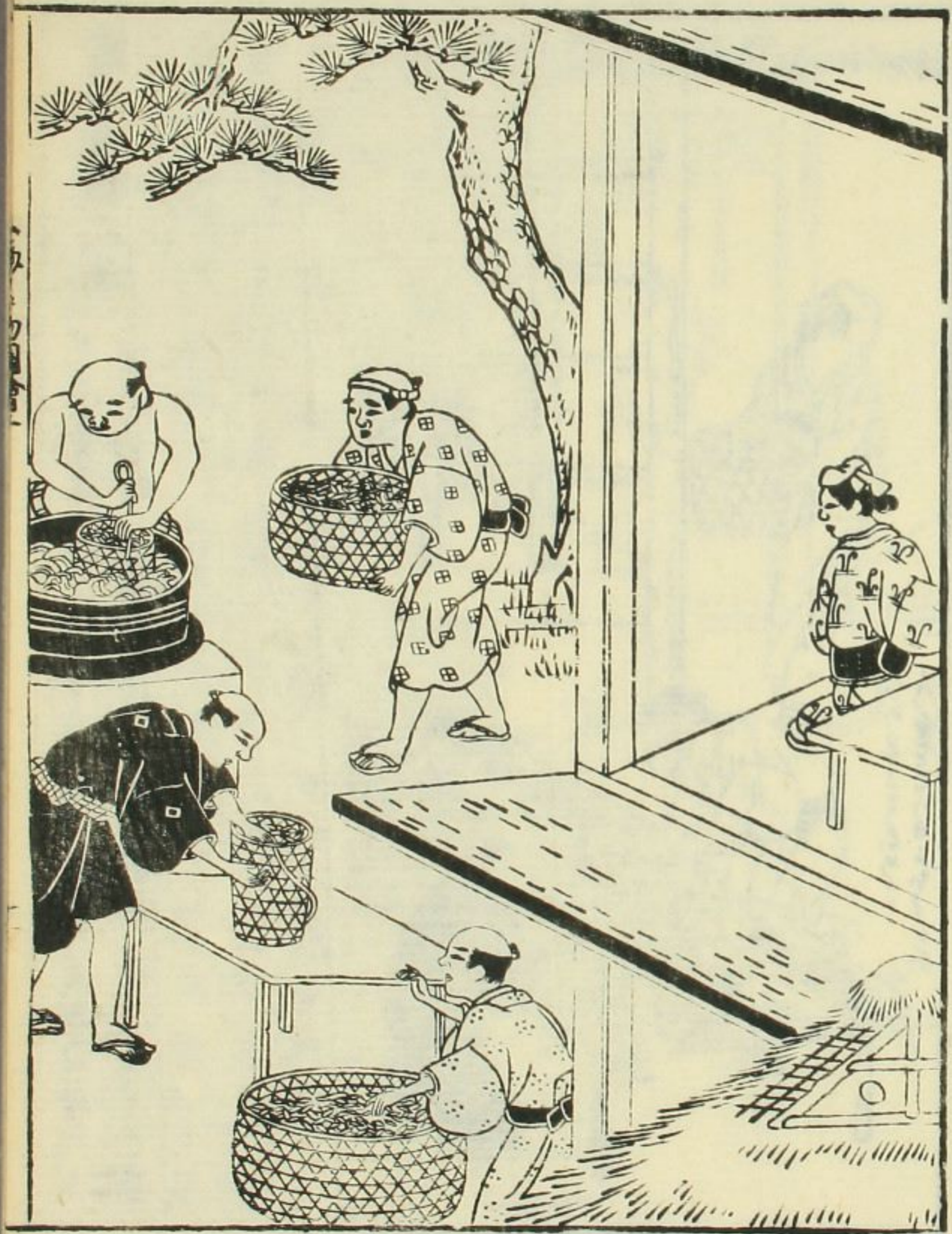


宇治茶摘

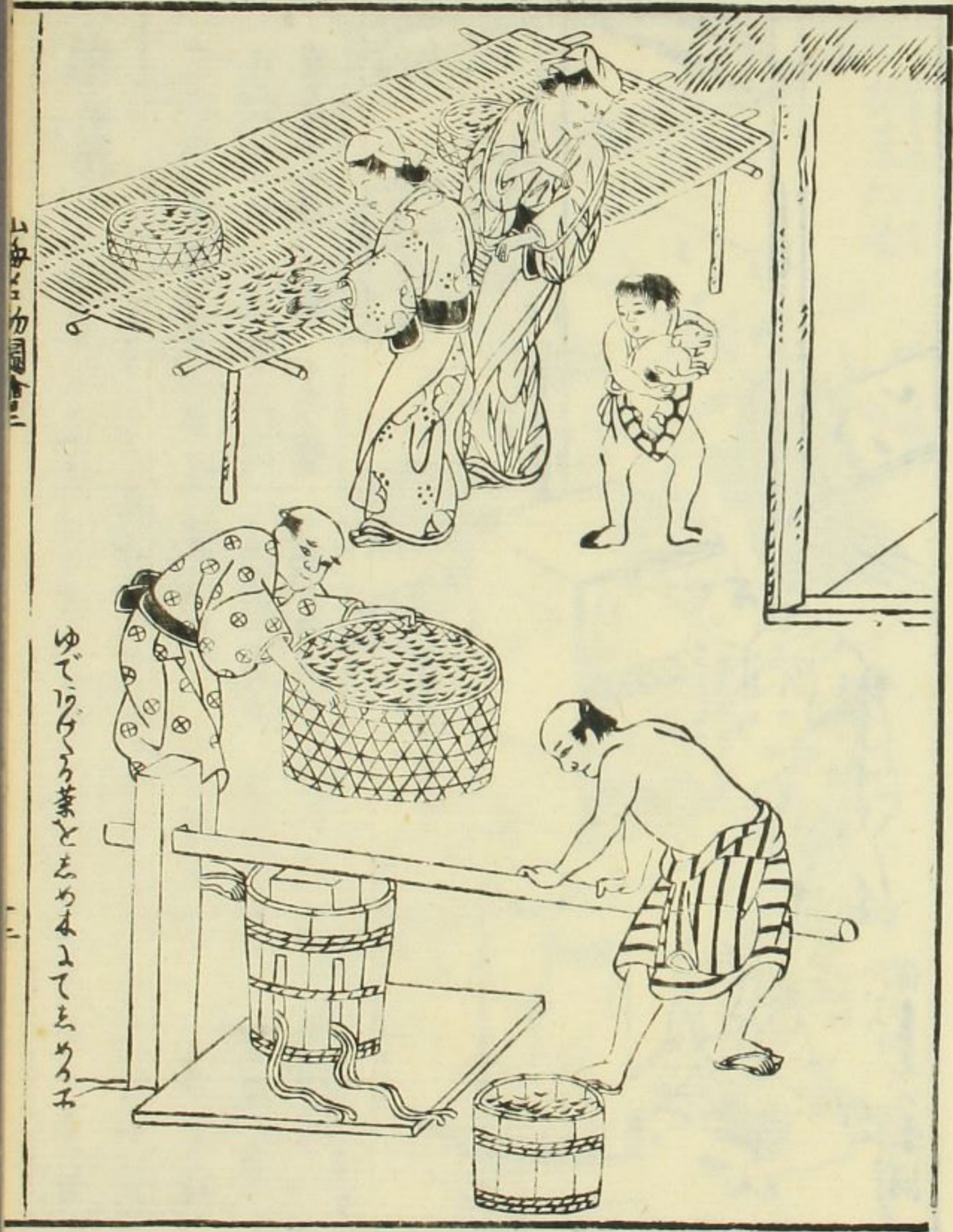
日本は茶とゆゆのりへ八十二代後香親侯の四子  
 に始まる末建仁寺の岡山蒙和尙渡唐の時  
 茶の種をもちりて筑前守能保山に植ふる是と名  
 上茶と云又梅尾の郷と人よを種とまのせられりと人  
 山城の宇治と梅尾と小栲する今梅尾は茶をえて宇治の  
 茶とあざとびこまり四月は茶とほめて賣茶と製茶に

山城七茶園

茶



ちやうく  
茶製法  
茶のまふとほきて是と折交よつれ名よてちやうく  
おんあくりのまおどよくありて後茶よておでらげ  
それと桶よつれてちやうくよてちやうくあまふとそりて目り  
わをりり次の後と合せらるべし九茶つと茶よりハ皆女れ  
ふ他ありや治れ茶つことてまふまてももるるし一たよ  
他よの人へあふはえあよありていとみとやうありとあり



茶名物大概

山城高野茶系 日蔭茶系 丹波茶系 日向茶系  
 伊予全龍 尾瀨崎遠 江列一山 日向茶系  
 日向茶系 日向茶系 日向茶系 日向茶系  
 日向茶系 日向茶系 日向茶系 日向茶系

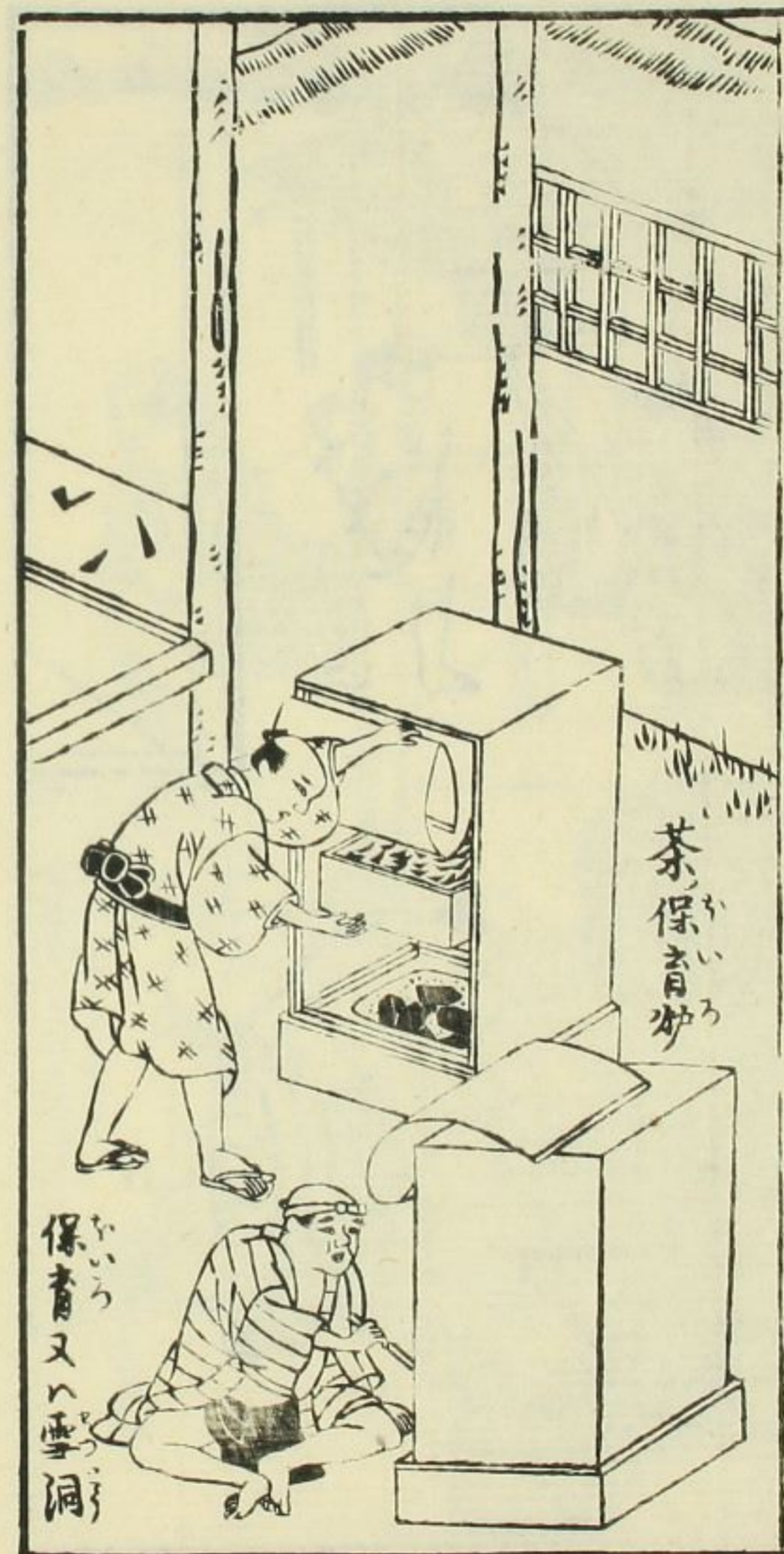


山崎谷物園



抹茶白湯

此云俗の助炭と云



茶保育炉

保育又ハ雲洞

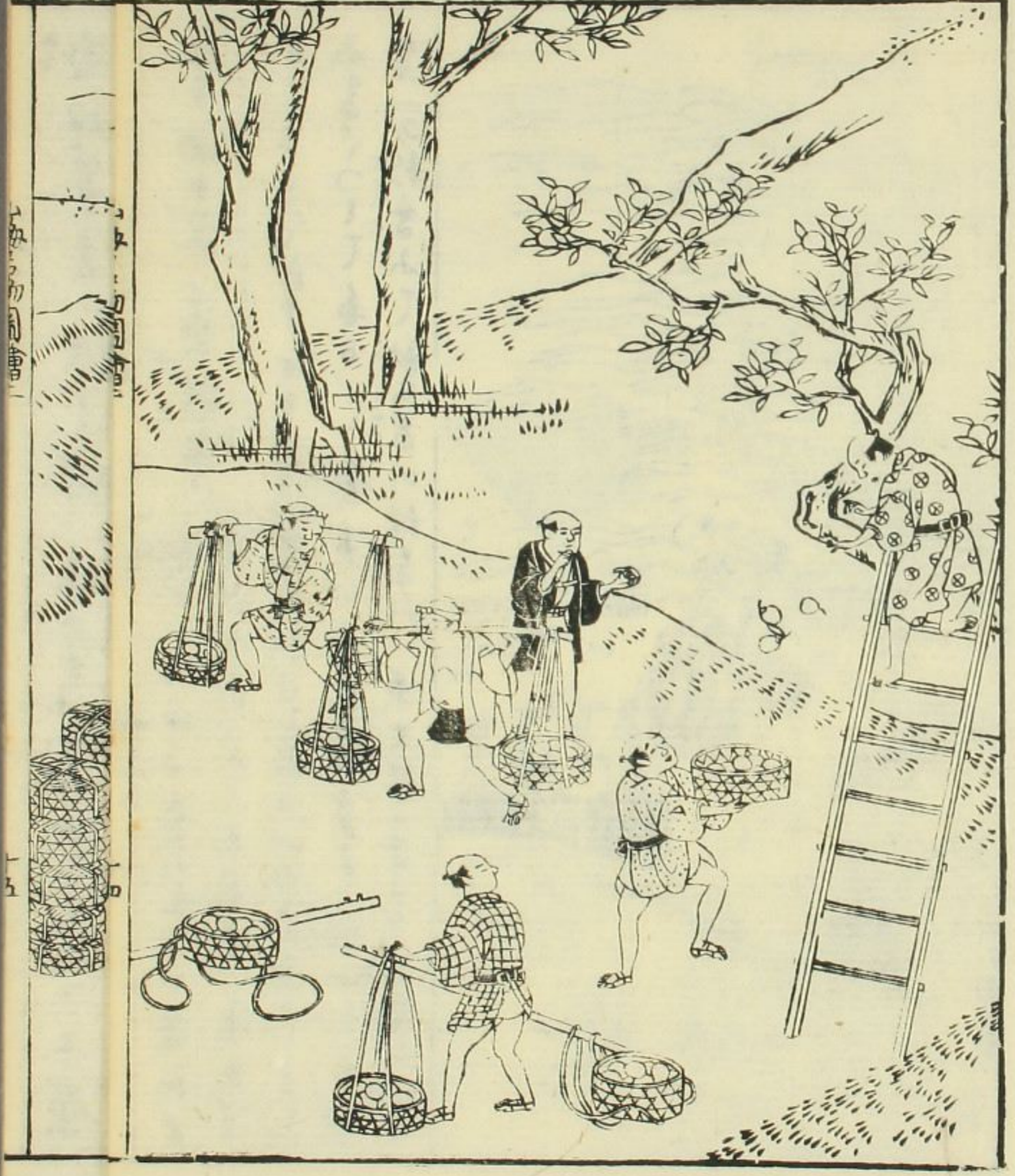
焙茶

上の焙も又えぐる茶の葉と湯出て日よかりと  
 かわりよけてあぶるくは焙ハ喜まらぬ時のほろろハ何んか

上林平入 上林之入 長井貞甫 酒多宗有 尾崎有庵  
 目越宗次 堀吉相 長等宗味 辻若徳

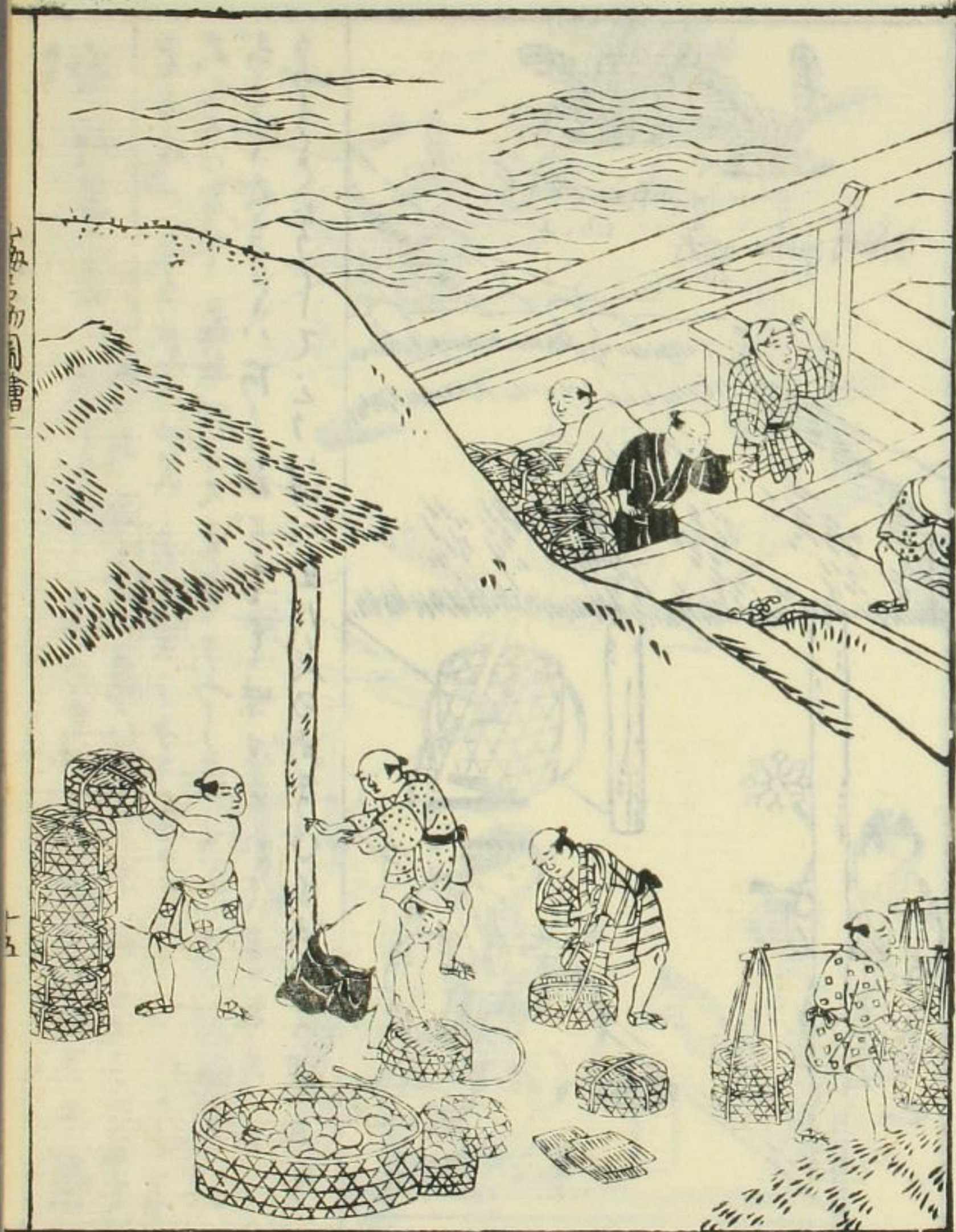
紀伊國蜜柑

系之板の市申は栗木のかやぐら紀伊ありふりおとよは終よ  
 入て風のあさぬやうに後めてあるく一終よ百入二百入三百入  
 何り終の大きさい何事も日一とみんの大きあの敷きくさ  
 を介解ふもかこのか加斐神あきのきよはみんのみか



江戸四日市ノ蜜柑市

江戸の市中は賣りおやく駿河も  
 出紀列みくんと大坂より赤白く  
 よて下るこ江戸四日市の廣小浜より参入のみくんとのごとく  
 小高くとつて毎日く賣買の音人群集を江戸八日市  
 才一の物會ふて秘製冒の体おんハ京大坂よまさりて振ハ一里

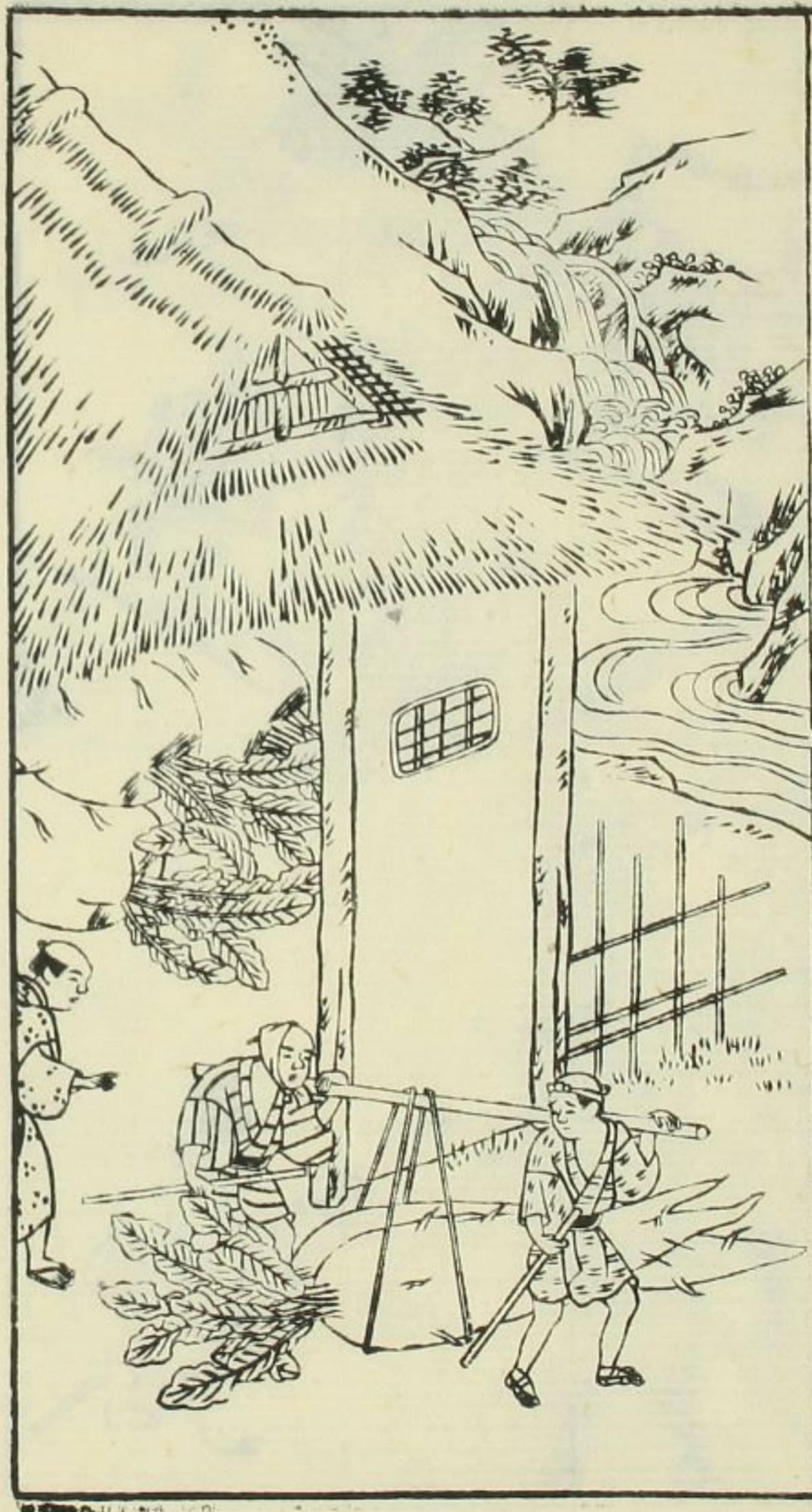






尾張大根

大根を煮て大さよして風味からく大と云ふ  
日本より大根の背一ちるへし江戸ぬりま  
大根大きき尾張大根よからしは極佳風味ハ尾張より  
とるふおとけり江別停吹大根又名おちり尾張大根  
おとけりは揚州倉橋江口本付名より出る大根又名おちり



早稲田大学図書館

011688995070